

# 魚 病 対 策 指 導

見奈美 輝 彦 ・ 宇 野 悦 央

昭和59年1月から12月までの病害検査状況は、養殖アユ91件、アマゴ6件（白点病、水カビ病、連鎖球菌症）、イワナ1件（細菌性鰓病）、テラピア1件（原因不明病？）、天然アユ3件（水カビ病、黒点病）及びフナ2件であった。

養殖アユについての検査状況を表1に示した。ビブリオ病は1月から8月までみられ36件（延べ22経営体）、細菌性鰓病は11件、その他（過食、水カビ病など）は44件であり、連鎖球菌症は前年に続きみられなかった。前年度は総検査件数が455件（延べ139経営体）、ビブリオ病が151件（延べ47経営体）であったことからみると、本年度はビブリオ病をはじめとして総体に病害は少なかったようである。

表1. 養殖アユの病害検査状況

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ビブリオ病	3* (1)**	3 (2)	11 (5)	2 (2)	2 (2)	7 (5)	2 (2)	6 (3)					36 (22)
細菌性鰓病			7 (5)	2 (2)		1 (1)						1 (1)	11 (9)
連鎖球菌症													0 (0)
そ の 他		13 (11)	10 (5)	3 (3)	4 (2)	5 (4)	2 (2)	2 (1)	2 (1)	1 (1)		2 (2)	44 (32)
計	3 (1)	16 (13)	28 (15)	7 (7)	6 (4)	13 (10)	4 (4)	8 (4)	2 (1)	1 (1)		3 (3)	91 (63)

\* 件数

\*\* 経営体数

分離されたビブリオ病菌24株のスルファモノメトキシシン（SMM）及びオキシリン酸（OA）に対する薬剤感受性を表2、3に示した。海産種苗から分離されるC型は7株とも、両薬剤に対し強い感受性（卍）がみられた。A型は17株のうち16株（94%）がSMMに、また、15株（88%）がOAにそれぞれ高い感受性を示した。

また、医薬品残留検査はアユを対象とし、塩酸オキシテトラサイクリン（6検体）、スルファモノメトキシシン（5検体）、スルフィソゾール（4検体）及びオキシリン酸（15検体）について行ったが、いずれも残留は認められなかった。

表2. 薬剤感受性の類別

薬 剤		血 清 型	
SMM	O A	C	A
卅	卅	7*	14
卅	+	0	2
—	卅	0	1
—	—	0	0

\* 株数

表3. ビブリオ病菌の薬剤感受性

No.	月 . 日	型	SMM*	O A**	No.	月 . 日	型	SMM	O A
1	1.17	A	卅	+	13	4.6	A	卅	卅
2	2.21	C	卅	卅	14	27	"	卅	卅
3	"	"	卅	卅	15	5.4	"	卅	卅
4	29	"	卅	卅	16	15	"	卅	卅
5	"	"	卅	卅	17	6.26	"	卅	卅
6	3.1	"	卅	卅	18	"	"	卅	卅
7	11	"	卅	卅	19	29	"	卅	卅
8	15	A	卅	卅	20	6.29	C	卅	卅
9	26	"	卅	卅	21	7.11	A	卅	卅
10	"	"	卅	卅	22	26	"	—	卅
11	27	"	卅	卅	23	8.7	"	卅	+
12	29	"	卅	卅	24	"	"	卅	卅

\* SMM: スルファモノメトキシン      \*\* O A: オキシリン酸